

今日の高度情報化社会の中で、大学図書館として整備すべき新しいタイプの業務として、情報仲介サービス（図書館職員によるデータベースの代行検索）や情報伝達サービス（電子ボード利用による図書、データベース内容等の案内、電子メール利用による図書の購入・借用、文献複写受付等）があげられてい

る。このような図書館業務の実施には、種々の業務に精通した職員の確保と施設の整備拡充が必要なことは言うまでもないことであるが、近い将来、研究者が上記のような図書館業務を利用できる日が来ることを期待したい。

（薬学部教授 衛生薬学）

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介3

重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)

工藤敬一

(3) 後醍醐天皇綸旨 二通 (原本写真を表紙に掲載, 原文解説を4ページに掲載)

<p>阿蘇大宮司館 十一月廿八日 左少弁 (花押)</p>	<p>天氣如此、悉之、 軍忠者 一族、發向鎌倉、可致 間、所被追罰也、相催 以下輩、有反逆之企之 足利尊氏同直義</p>	<p>[2]</p> <p>「建武二年」 十一月廿五日 右中將 (花押)</p>	<p>[1]</p> <p>足利尊氏同直義已下 輩、有反逆之企之間、所被 誅罰也、阿蘇前大宮司 惟時令發向鎌倉、司致 軍忠者 天氣如此、悉之、 (異筆)</p>
---	--	--	--

## 〈原文解説〉

後醍醐天皇の新政の樹立に協力した足利尊氏は、新政権の公家中心の政策に反撥する武士達の支持を得て、建武2年(1334)10月弟直義とともに鎌倉で叛旗を翻した。天皇は直ちに全国の支持勢力に対し、尊氏・直義追伐の<sup>うんじ</sup>綸旨を発した。ここに紹介するのは〔1〕阿蘇前大宮司惟時と〔2〕現大宮司惟直宛の二通の綸旨である。綸旨とは、天皇の命令を側近の者が奉じて出す書状(手紙)形式の文書である。内容はいずれも、尊氏・直義誅罰のため鎌倉に発向せよ、というものである。

「天気」とは天皇の<sup>みりしき</sup>御気色(御意向)の意であり、敬意を表して行かえで書かれている(この方式を<sup>へいしゅつしき</sup>平出式という)。

綸旨は通常の文書とことなり、<sup>しゅくし</sup>宿紙を用いるのが普通である。宿紙は一度手紙等に使用した用紙を漉き直した再生紙で、墨をふくんでいるため灰色で薄墨紙ともいう。天皇の命令を取り扱ったのは、天皇の秘書局として、平安時代前期<sup>くす</sup>葉子の乱のあとで設けられた<sup>くろうどどころ</sup>藏人所である。この藏人所が発給する勅命文書(綸旨や役人の叙位・叙任の<sup>くせんあん</sup>口宣案など)には宿紙が用いられた。なぜ天皇の命令文書だけに宿紙が用いられたのかは、定説はないが、あるべき天皇の徳政(儉約)の姿勢を示すものだ、とする説もある。この習慣は、「天気此の如し」とする綸旨の形式とともに江戸時代末期まで続いた。もっとも江戸時代には再生紙ではなく、特別あつらえの薄墨紙が用いられた。

ところでこの二通の綸旨は、趣旨は同じであるが、〔2〕は通常の手紙形式で「阿蘇大宮司館」という<sup>あてどころ</sup>宛所(あて名書き)があるが、〔1〕にはそれがなく、あて先は本文の中に「阿蘇大宮司惟時」と記されている。

もちろん宛所を書くのが正式の丁寧な書き方である。本文中にあて先の名を入れるのは、<sup>はくれい</sup>薄礼すなわち高飛車な書き方である。逆に差出人が本文中に、例えば「尊氏謹言」のように自分の名前を書くのはたいへん丁寧な書き方である。この場合、惟直は惟時の子であるが、惟時は隠居し、惟直が現職の阿蘇大宮司で一族を代表する立場にあった。したがって、本文でも惟直宛のものには「一族相催し」という、惣領の立場を示す文言が入れられたのである。

本学所蔵の阿蘇家文書中には、この二通の外、同じ時点での阿蘇氏一門の上島彦八郎惟頼宛の綸旨と惟頼の軍忠状もある。惟頼はこの催促を受けて鎌倉に発向し、菅根山の戦いで負傷し、12月27日、後に恩賞請求の根拠とするため軍忠状(負傷や討死も軍忠である)を提出し、指揮官であった菊池武重がこれに證判を与えている。

菅根山の戦いは足利方の勝利となり、尊氏らは敗走する新田義貞らの政府軍を追い京に入ったが、そのあとを追って上京した北畠顯家の奥州軍に敗れ、建武3年2月いったん九州に下る。そして3月末、多々良浜の戦いに勝ち、5月には再度上京し、戦局の主導権を完全に掌握することになる。

(文学部教授 国史学)

# 東光原

ISSN 0917-7604

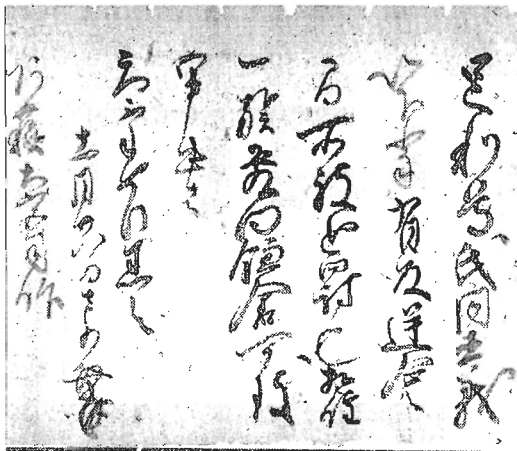
熊本大学附属図書館報



Kumamoto University Library Bulletin, No. 4, February 1993

目次

- 研究情報の入手いま昔
- シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介3
- 重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)
- 迫田コレクションについて



後醍醐天皇綸旨二通 (阿蘇家文書より) 本文に解説